

みんなで語る会報告書

対象団体	山川水産加工業協同組合青年部協和会
テーマ	「指宿と山川鯉節の未来」
開催日時	平成24年10月31日(水) (10時30分～12時00分)
開催場所	山川水産加工業協同組合 2F
参加者数	青年部協和会…9人 指宿市…8人 市長, 副市長, 産業振興部長, 山川支所長, 総務部参与 商工水産課長, 秘書係長, 市長公室職員

17名

会次第

全体進行…山川水産加工業協同組合青年部協和会

- 1 開会
- 2 協和会会長あいさつ
- 3 市長あいさつ
- 4 意見交換会 テーマ「指宿と山川鯉節の未来」
- 5 閉会

内容等

1 開会

2 協和会会長あいさつ

前回と同じように活発な議論をしたい。前回の協議を受けて、協和会として毎月24日は鯉節をPRする取り組みをしてきた。今後も継続していきたい。

3 市長あいさつ

前回以降、様々な情報を会長よりいただいている。枕崎市も24日を「ふしの日」と制定するなど、積極的な行政の取り組みがある。この話し合いの結果を実現するためにはどうすればいいのかを本音で語り合いたい。ぜひ皆さんの目線で、たくさん意見をいただければと思う。24日を地域に根付かせるかは大切なことだ。

4 意見交換会

テーマ「指宿と山川鯉節の未来」

(1) 山川の再生発展に向けた整備

①鯉節工場で働きやすいように近隣に市営住宅の整備(入浴施設の充実)

②鯉節工場働く女性には住宅入居緩和

(青年部)

加工組合に加入している業者のうち26社が、加工団地で営業しているが、そこに通う従業員は外国人、もしくは指宿、開聞など近隣地区から来ている。地元でない場合は、交通費などのコストがかかってくる。できるだけ地元で雇用を創出したい。そして日本人の雇用は、技術の伝承、鯉節産業の発展にも繋がる。もし住居施設が近場であれば、地元での雇用につながる。

(秘書係長)

市営住宅の入居については、全ての市民を対象として、住宅に困窮している方々に提供している。現段階では、新規の住宅の建築は予定していない。今ある住宅の維持補修、立替の計画のみだ。

市営住宅は47団地、791庫の住宅を保有している。申し込みをしたが入れない待機者は330人ほどで、入居自体が非常に厳しい状況だ。

(市長)

「住宅があれば鯉節工場で働きたい」という方が多くいて、それが長期に続く場合は、住宅の整備は解決策の一つとなる。空家の整備、利用していない教員住宅などの活用も考えられる。

(組合)

山川地区に空家、空施設が増えてきている。それらを活用するという方法はないのか。

(市長)

本当に鯉節工場で働きたいという人がいることが前提だが、その場合どれくらい空き家があるのか、貸し出し可能な住居がどれほどあるのかの調査は必要。改修の必要性を調べ採算性がとれるのなら、安価で労働者に提供することは理想的だと思う。

(青年部)

中国の方々に対する組合の住居施設の対応が、現状では不十分だ。漁協の施設の一部を借用し、住居にしてもらっている。市として、中国人に対する住居施設の整備をすすめる考えはないか。

(市長)

もし整備するとなると、新設ではなく、既存の施設の転用を考える必要がある。旧施設の活用を含めて、快適な住居施設の提供は必要だと思う。

(青年部)

私たちの仕事は、汚れる仕事。昔は近くに入浴施設があったが、いまはなくなってしまった。近隣に入浴施設があればいい。施設があれば、仕事場から直接買物に行ける。

(市長)

いろいろな意見を前提に検討させてほしい。雇用者の住環境の整備については、考えていく問題だ。

③地熱発電の積極的活用。有用な資源があるのだから活用しその恩恵を受けるべき

(青年部)

温泉、地熱発電の恩恵を身近に感じられない。またクリーンエネルギーを加工業に生かしていくことができないかと思っている。

(総務部参与)

山川地熱発電は3万キロワット、約1万5千世帯分の電力を生み出している。先日再生エネルギーの電力については、固定価格で買うことが決まった。それ以降再生エネルギーへの取り組みが活発になってきている。

また山川地熱発電所では、バイナリー発電という新しい方式をテストしている。温度の低いお湯でも発電できる方式だ。

グリーンエネルギーの取り組み状況だが、丹波小学校の校舎新築、北指宿中学校の体育館新築の際に、太陽光発電の設備を付けている。年間の1割程度の電気量をそれでまかなっている。風力発電については、景観などの問題があり実現をしていない。

(青年部)

加工団地の敷地に太陽光発電施設を設置するなど、今後検討していきたい。電気量が上がると経営に影響が出る。

(上村副市長)

省エネルギーセンター九州支部が、中小企業については無料で節電チェックをしてくれる。今後の経営に役立てて欲しい。

また太陽光発電については、事業者自身が計画を立ててもらいたい。それぞれの事業所では規模が小さいので、組合全体で計画を立てて欲しい。

(2) 山川港の港湾整備について

①大型観光船や運搬船を容易に受け入れるための整備

②貨物輸出入の実現にむけた整備

③国内主要港に成長させるために、輸入船が直接入港できるように整備

(青年部)

組合の理事からも、開港に向けて行政に対して要請したという話があり、今回議題とした。現在は入港船数が少ないのが現状だ。入港をとにかく増やすための方策はないか。

(商工水産課長)

山川漁港は第三種漁港ということで、管理は県が行っている。漁港の整備は補助金などで年次的に行ってきたが、山川漁港の方は、28年度ぐらいまでは浚渫を行う。それらの整備もあり、大型の鰹節船が2隻同時に入港できるようになった。

その成果もあり入港が増えてきており、去年が年間に31隻だったが、今年は既に30隻入港している。

また冷凍冷蔵庫もできた。まだ十分には足りない状況だが、整備が進んでいる。漁港整備は年次的にこれからも進めていく。

開港の問題だが入船数がたりないということで、特区の申請を受けるのは難しい。通常の申請に変えて、山川漁港開港促進協議会を通じて要望活動を進めていくつもりだ。

開港が難しければ、最低でも無線検疫港の指定を受けようと努力していく。できるだけ山川港の入船数が増えるようにしたい。

山川港は漁港であって、港湾ではなく、また深さが足りないので、にっぽん丸などの観光船の入港は難しい。将来は開港ができれば、海外を含めた観光船の入港も考えられる。

(産業振興部長)

開港の条件として、輸入船が50隻以上入らないといけない。そのためには、環境の整備も必要になってくる。また観光船を入れるためには、現在マイナス8mの水深だが、これをマイナス12mまでの深さにしなければならない。航路の拡張もある。山川港は漁港になっているので、港湾指定が必要。ただ枕崎港は漁港のまま開港した。なんらかの工夫をしながら、開港もしくは最低でも無線検疫港にしたい

(3) その他

①前回の語る会以後の青年部の取り組みについて

…青年部、市役所からの活動報告あり

(市長)

山川として何か独自の活動はできないかと考えている。指宿駅前に施設を見つけ、そこを鰹節のPRの拠点として、毎月24日に恒常的にPRをするなど、イベントは一過性で終わってはいけない。1年を通してPRする必要がある。今後もしろいろな意見やアイデアを出してもらえればと思う。